

## 矢作地区まちづくり交付金事後評価委員会 議事要旨

日 時：平成20年11月19日 13:30～

会 場：西部地域交流センター2階 防災活動室

出席者：松本壮一郎委員長、浅岡林平委員、長坂宏子委員、生駒義雄委員、岡田耕一委員

〔事務局〕：山本（企画課）、初井（東岡崎・藤川地区整備課）、小林（安全安心課）、市川（道路建設課）、神尾（市民活動総合支援センター）

### 【説明】

#### 1. 「事後評価制度」と「矢作地区都市再生整備計画」について

##### 説明

〔事務局〕

- ・資料1「1. まちづくり交付金制度の活用と事後評価」に基づいて、まちづくり交付金制度の概要と目的、評価委員会の役割などについて説明

##### 質疑応答

なし

### 【審議】

#### 2. 「事後評価手続き」について

##### 説明

〔事務局〕

- ・資料1「2. 矢作地区都市再生整備計画の概要とまちづくり交付金事業の進捗状況」に基づいて、地区のまちづくりの課題、目標、成果指標、事業の進捗状況などについて説明

##### 質疑応答

〔生駒委員〕

- ・事後の実績の評価とあわせて審議したい。

〔松本委員長〕

- ・事後評価の結果の説明後、まとめて審議する。

##### 説明

〔事務局〕

- ・資料2「まちづくり交付金事後評価方法書」に基づいて、事後評価の手続きなどについて説明
- ・資料3「まちづくり交付金事後評価シート」に基づいて、事後評価の結果などについて説明

##### 審議

〔生駒委員〕

- ・市民活動施設利用者数の事後評価の達成見込みについて、矢作市民センターと西部地域交流センターの利用者数の内訳はどのようになっているのか。

〔事務局〕

- ・矢作市民センターの平成20年度の年間利用者数の見込みについて、今年度4～6月の実績と過去の実績に基づき29,962人を算出している。
- ・また、同様に、西部地域交流センターについては、今年度4～6月の実績と類似施設における過去

の実績から 79,940 人を算出している。

- ・両施設の合計で市民活動施設利用者数の見込み値 109,902 人となっている。

〔松本委員長〕

- ・西部地域交流センターの整備によって新しく増える見込みである利用者約 8 万人は、これまで利用できる場所がなくて困っていた人たちと理解してよいのか。

〔事務局〕

- ・岡崎市内において、西部地域交流センターは、北部・南部に続き 3 館目の地域交流センターとなる。しかし、施設が増えて頭打ちになるどころか、それぞれ利用者数は増加している。活動の場所が新たにできたことにより、市全体として市民活動が盛りあがっているようである。
- ・西部地域交流センターにおいては、半数以上の利用が矢作地区内の団体であるが、地区外からも活発に利用されている。また、一般市民が使える会議室など、今までになかった種類の施設として積極的に利用していただいている。

〔浅岡委員〕

- ・これまでの矢作市民センターは飽和状態であったため、抽選に漏れて利用できない人がいた。西部地域交流センターができたおかげで、それらの住民が利用できるようになったということではないのか。

〔生駒委員〕

- ・そうした面に加えて、ヨガサークル、太極拳など新しいサークルが数多く生まれている。また、カラオケ、学校行事など、公共的な催しでも利用されるようになってきている。公共施設で安く、気軽に使えるという点で地域に貢献しているようだ。

〔事務局〕

- ・それは、「〔指標 2〕 矢作地域に本拠を持つ市民団体数」が増えていることに示されている。平成 15 年度は 4 つの市民団体の登録であったが、以降、5 団体（16 年度）、4 団体（17 年度）、6 団体（18 年度）、11 団体（19 年度）、平成 20 年度も年度途中で 10 団体が登録している。想定以上に伸びている。

〔松本委員長〕

- ・この登録団体は何度も施設を利用していると考えて良いのか。

〔事務局〕

- ・登録団体の個別の利用状況についての把握はできていないが、登録によって利用料が半額になるので、おそらく利用していると思われる。

〔生駒委員〕

- ・団体の活動内容によって、月に何回も利用するところもあれば、年に 1, 2 回のところもある。利用状況はバラバラである。

〔浅岡委員〕

- ・市民にとって半額で利用できる効果は大きい。

〔事務局〕

- ・市民活動の登録について、市内の公益的な活動状況を把握する目的で、保険や施設利用料半額等などの特典を設けている。それが魅力になって登録が増えている。

〔松本委員長〕

- ・市民活動の団体数は、増えた反動で減るようなことはないのか。他の地区の様子はどうか。

〔事務局〕

- ・市民活動が活発になると、新しい仲間が増え、発展的に分裂等が行われる。これからも団体数が増える傾向が続くと考えている。

〔浅岡委員〕

- ・矢作橋駅の乗降客数の増加は、岡崎城西高校が男女共学となったためではないか。遅刻しそうな学生が駅からタクシーを利用することがよくある。
- ・また、昨今のエコ通勤の流れで、三菱重工の工場に来る人が、矢作橋駅・宇頭駅からタクシーを利用するケースが増えている。
- ・そのあたりのことから矢作橋駅の利用度が上がっている実感がある。

〔松本委員長〕

- ・見たところ矢作地区にはマンション・アパートの建設が増えているが、地区内で駅周辺の場所への転居などがあるのか。

〔事務局〕

- ・駅周辺の人口動態では、この5年は大きく変化はない。

〔生駒委員〕

- ・県道沿いの一部の区域のみ増えているが、矢作地区の人口は横ばいに近い。
- ・矢作地区は駅北側にしか商店街がない。線路で地区が南北に区切られることによって行き来がしにくくなっているため、矢作橋駅の南北の自由通路を通してほしいという地元からの要望がある。また、高齢者に優しいエレベーター付きの自由通路を求める声もある。
- ・人の流れがないと街は活性化しない。そのため家に籠もっている人をいかに外に出すかが大事だと思っている。道路や駅の整備の影響は大きい。

〔松本委員長〕

- ・西部地域交流センターは、矢作橋駅の南側の地区からの利用はあるのか。

〔事務局〕

- ・それほど地域の偏りはないと思う。

〔生駒委員〕

- ・必要があれば来て利用する。

〔浅岡委員〕

- ・地区の北部と南部の違いについて、矢作橋駅南側の住民は、市民病院には行かずに安城市内の安城更正病院に行く。

〔生駒委員〕

- ・今月から、矢作橋駅から市民病院へのシャトルバス便が設置された。そのため、人々の流れが良くなってきているのではないかと。交通機関との兼ね合いで、人の動きは変わってくると思う。

### 3. 「今後のまちづくり方策」について

説明

〔事務局〕

- ・資料3「まちづくり交付金事後評価シート」に基づいて、今後のまちづくりの方策について説明

審議

〔長坂委員〕

- ・西部地域交流センターの利用者は、どの年代層が多いのか。

〔事務局〕

- ・詳細な統計をとっていないが、昼間は女性を中心とした活動の利用が多い。西部地域交流センターの特徴として400名収容ホールがあるので、そのイベント等では、子どもや中高生などの若年層の利用も多い。子ども利用が増えるとその親世代の利用が増えている。
- ・矢作市民センターの定期講座については、高齢者が中心となっている。

〔松本委員長〕

- ・想定される事業の「人材育成プログラム」とは、リーダー的人材を育成することを目的とするのか。

〔事務局〕

- ・市民活動の入門講座から、組織としてボランティア活動を継続していくための団体強化に関わる講座などについて、各地域交流センターで実施していくことを考えている。

〔松本委員長〕

- ・地域行事との連携とはどのようなことを考えているか。

〔事務局〕

- ・現在でも「矢作花の塔」の地域行事に施設管理者の“NPO法人りた”が参加するなど、町内会等の地域活動に場所を開放するなどしている。今後は、運営懇談会の実施などにより、地域活動と市民活動のつながりや交流を深め、さらなる人材が発掘されることをねらっている。

〔浅岡委員〕

- ・北口の自転車駐輪場利用者が南口の駐輪場を知らないことも多い。広くて利用しやすい南口駐輪場を案内すべきである。

〔生駒委員〕

- ・北本郷町など、南口自転車駐車場の西側の地区からの利用者は、名鉄構内を自転車を押していく必要があるため、線路を渡って北口自転車駐車場を利用しているようだ。南口自転車駐車場を利用しやすくする工夫や案内をするとよい。それだけでも数十～百台の移動があると思う。

〔事務局〕

- ・改善策としては、北口自転車駐車場からの誘導、西側の地区からの利便性の向上ということですね。

〔松本委員長〕

- ・広くするばかりが道路整備ではない。防災上は狭いかもかもしれないが、拡幅して自動車の通り抜けに使われては危険である。ヒューマンスケールを大事にした生活道路として整備することも考えてよいのではないか。
- ・部分的に信号を取り付けるのは問題があるのか。

〔事務局〕

- ・街に自動車が入り込まないようにするのは、警察の許可を得て、時間的に交通を規制する方法もある。しかし、現状の交通量からみて困難である。国道1号沿いではどこにでもある悩みである。

〔松本委員長〕

- ・事業評価シート of 新たな課題には、利用者の意見が反映されているのか。

〔事務局〕

- ・西部地域交流センターについては、施設管理者である“NPO 法人りた”のスタッフが普段の活動から意見を吸収しており、それらを踏まえている。

〔松本委員長〕

- ・災害時に、西部地域交流センターは矢作地区の防災拠点になるのか。

〔事務局〕

- ・日頃は、災害に備える活動の拠点となる。また、災害時には、災害ボランティアの指令本部というような使われ方が想定される。

〔松本委員長〕

- ・岡崎市民の防災意識は高いのか。

〔事務局〕

- ・3年前の意識調査によると、満足度が高く、今後も重要と考えているということで、意識は高い。国の地震防災対策強化地域にも指定されているし、防災・防犯協会による地域単位の自主的な活動も盛んである。先日の豪雨もあり、意識はさらに上がっているだろう。

〔松本委員長〕

- ・矢作地区には広域避難所の看板があまり見られないようだが、どうなっているのか。避難訓練はしているか。

〔事務局〕

- ・岡崎市においては、一般の避難場所は小中学校、広域避難場所は高台にある公園となっている。広域避難場所は矢作地区の付近にはない。

〔生駒委員〕

- ・地震への対策はとられているが、このあたりは矢作川より低地なので、水害の場合は避難場所にならない。
- ・先日の豪雨でも、下水道整備が進み、幸い浸水被害はほとんどなかったが、県道岡崎半田線の西側地区が浸水してしまった。水害については矢作川の改修が必要であるので、流域全体の大きな課題となる。

〔松本委員長〕

- ・今後は、安全性とともに快適性を重視する必要がある。街の交流の場として、矢作橋駅、西部地域交流センターを一体的に活用していくべきではないか。
- ・住民が地域に愛着を感じるころからまちづくりの第1歩が始まる。例えば、地区内を歩いてみると、狭い道路が多いけれども生垣や駐車場を景観的に工夫している家があった。そのような市民の少しずつの努力が街全体の快適性につながるような工夫を考えていくとよい。また、多くの家は塀がないので、そういう特色を利用してコミュニティづくりができれば良い。
- ・また、先日の夕方、高校生がキャッチボールしている様子を見ることができた。都心部では見られなくなった光景であるが、矢作地区には、住民の立ち話など、素朴な風景、心安らぐ風景が残っている。そのような、ヒューマンスケールに合った、人間らしい行為がみられるような街としてほしい。大事にすること、変えることをしっかり考えていくべきである。
- ・西部地域交流センターで写真展などを呼びかけるなどして、まちに愛着が持てるような仕掛けをして、発信していても良いのではないか。

〔長坂委員〕

- ・防災にも地域性があることがわかった。災害時の受け皿となる避難場所はあるか。

〔生駒委員〕

- ・地震の場合は学校、小公園となる。一方で水害に対しては、残念ながら無防備に近い。

〔長坂委員〕

- ・先日の豪雨のときに警報が伝わっていなかった。また、警報が出ても、どうして良いのかわからない。災害時に地域にしっかり伝達できるような訓練、仕組みなどが必要である。これは全市的な問題である。

〔生駒委員〕

- ・災害時は総代が皆さんに知らせることになる。先日の豪雨の時は、矢作川の水位が低かったため、一部道路の冠水が見られたのみで、避難の必要性が少ないと判断された。実際、避難の判断基準は難しい。
- ・水害については、河川改修をしなければ、根本的な解決は難しいだろう。

〔長坂委員〕

- ・警報は地域ごとに出されるのか。

〔事務局〕

- ・市では、気象庁から出された情報により避難等の対応を判断している。前回の豪雨については全市域が豪雨となる予想が出されたことから、全世帯の避難勧告となった。しかし、市から各地への連絡がシステムのではなかった。

〔長坂委員〕

- ・この前はゲリラ的な豪雨であった。災害の種類によって、細分化して対応していただきたい。

〔事務局〕

- ・岡崎市では、各公共施設へのインフラはできているが、各家庭への連絡方法が十分ではない。総代さんへの連絡だけでは無理があるので、各家庭へ防災無線ラジオを配布するなど、直接家庭へ情報を届けるような情報対策に着手するところである。

〔浅岡委員〕

- ・地元委員の意見を十分聞いていただいて、今後のまちづくりに活かしてほしい。

〔生駒委員〕

- ・予算の問題があって、なかなか要望どおりにはいかないが、優先順位をつけて各年度の計画で少しずつ取り組んでいく必要がある。行政と住民との橋渡し役で、われわれ委員が意見を出し合っていくべきである。

〔松本委員長〕

- ・最後に、矢作地区の都市再生整備計画の事後評価手続きは適切に行われたこと、今後のまちづくり方策も適切に検討されたことを確認したいが、いかがか。

〔委員全員〕

- ・異議なし。

〔事務局〕

- ・本日いただいたご意見を踏まえて、事後評価に反映させていきたい。